



榎原中だより

学校教育目標 「仲間とともに自らを磨き続けられる人間の育成」

京都市立榎原中学校

学校だより⑥

令和7年(2025)9月26日

校長 川上 貴由

学校教育力向上に向けたアンケート結果 (生徒回答)

前号で掲載いたしました「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答に引き続き、生徒回答の集計結果を紹介いたします。この結果につきましては、学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。詳細は学校HPに掲載しています。*数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数をあわせた割合になっています。

令和6年度「後期」と令和7年度「前期」との比較

*令和6年度より上がった(↑)

*令和6年度より下がった(↓)

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「**京都市はぐくみ憲章**」を実践しましょう!



設問	R6	R7
①学校生活は全般的に楽しく過ごせている	**	95%
②友達と仲良く過ごせている	**	97%
③困ったときに相談できる友達がいる	**	92%
④学校行事を前向きに取り組んでいる	**	91%
⑤自らすすんで挨拶ができています	**	79%
⑥学校のルールは守れている	**	90%
⑦授業は楽しい	**	74%
⑧文章の読解力や作文・発表等の表現力が増してきた	**	69%
⑨授業で学んだことは、将来役に立つと思う	**	84%
⑩予習復習をできている	**	50%
⑪グループ学習では仲間と相談しながら、自らの課題を見つけて取り組んでいる	**	79%
⑫宿題を忘れず提出している	**	82%
⑬授業を受ける前に教室の美化、机椅子はきちんと整理されている	**	75%
⑭自分にはいいところがある	**	81%
⑮将来の夢がある	**	66%
⑯早寝、早起きを心がけている	**	61%

設問	R6	R7
⑰朝ごはんを毎日食べている	**	88%
⑱ハンカチをもってきている	**	50%

今年度より、アンケート項目を大幅に変更しましたので、令和6年度の部分を「**」と表記しています。

●○学校生活について○●

設問①から④に見られますように、おおむね多くの生徒が学校生活に満足しているものと思われます。しかし、「授業は楽しい」の項目が80%を下回っており、そのことが設問⑩「予習復習をきちんとできている」と関係していると推測します。

人間の行動は、認知に影響すると言われています。つまり学習に対して「どうせ勉強しても無理だ」と認知してしまうと、行動にはなかなか起こせません。また、認知には快感感情といって、自分が楽しいと思ったことは吸収しやすいと言われています。つまり「授業が楽しい」ということは、学習内容を理解することにつながり、理解できたという認知が「勉強したい」という行動につながります。そのためには、生徒が「楽しい」と思える授業を行うことが大切です。保護者アンケートの結果もふまえて、教職員の研修を充実させて、よりよい授業の改善に努めてまいります。

★★自尊感情について★★

⑮の設問「将来の夢がある」は、60%台と低い数値を示しています。全国学力調査における結果では全国平均約67%となっており、本校の生徒は若干下回っている結果です。自尊感情を高めるためには、友達や先生、保護者と意見を交わせる交流欲求や、良いところを認めてくれる承認欲求を満たすことが大切と言われています。つまり、

このような場面を増やしていくことが自尊感情を高めることにつながります。

本校では、4人組での授業を推進しており、生徒同士が交流する場面を増やしていこうとしています。また、「世界の1つだけの花」を毎週の学校ホームページで更新するなど、生徒の良いところを評価する取組を行っています。

ご家庭でも、交流の場面や、褒める場面をより増やして頂き、檜原中学校の生徒達をさらに伸ばせるようにご協力ください。

全国学力・学習状況調査の結果

4月17日(木)、3年生を対象として実施されました「全国学力・学習状況調査」についての結果と考察を報告いたします。この調査は、国語・数学・理科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。理科・生徒質問紙の分析については次号でお伝えさせていただきます。

■国語

「①言葉の特徴や使い方に関する事項」「②話すこと・聞くこと」「③書くこと」「④読むこと」の4つの領域のうち、①③④については全国平均を上回っています。②については若干下回っています。

「②話すこと・聞くこと」については、「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる」力、「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる」力を問う問題が、全国平均を下回っていました。

「③書くこと」については、「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる」力を問う問題が、全国平均を下回っていました。手紙を読み、誤って書かれている漢字を修正する、という問題です。しかし、「①言葉の特徴や使い方に関する事項」で問われた漢字や語彙の問題については、全ての問題が全国平均を上回っていました。②の全国平均を下回った問題の内容も踏まえると、「覚えた知識を答えること」はできている一方で、「知識を使って問題を解決すること」についてはまだ課題があると考えられます。知識の地盤はできているので、これまでに習得してきた内容を応用したり活かしたりすることができるように、学習活動を展開していきます。

また、上記以外の③の問題については、全国平均を大きく上回っています。特に、「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」力、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」力を問う問題について、正答率が高かったです。「④読むこと」についても、「表現の効果を答える問題」「登場人物の設定について説明する問題」のいずれも、全国平均を上回

っています。国語のみならず様々な授業で、根拠を明確にすることを意識したり、自分の考えを文章にまとめたりする活動が、実を結んでいると考えられます。

今後とも「正しい知識・技能の習得」「習得した知識・技能の活用」を軸として、「つけられる力」「他の活動とのつながり」「つけた力による問題解決」を生徒自身が実感できる学習指導を行っていきます。

■数学

学習指導要領の領域「A 数と式」「B 図形」「C 関数」「D データの活用」の4つの領域のうち、B・Cについては全国平均を上回っています。Dについては若干下回っており、Aについては大幅に下回っています。「C 関数」の分野では、グラフや変化の読み取りに関する問題で全国平均を上回る結果が見られました。また、「D データの活用」のなかの「資料の活用」では、表やグラフから情報を読み取る力が育っている様子がうかがえました。今後の課題として、「A 数と式」の基本問題(計算の意味や式の理解)で正答率が低く、基礎的な計算力や式の構造理解に課題が見られました。「B 図形」の分野では、空間的な把握や角度・長さの関係性を理解する力に改善の余地があると考えています。

今後の指導については、今回の結果を受けて、基本の見直しを大切に、「なぜそうなるのか」を丁寧に説明し、理解を深めていきます。また、授業の初めの小テストや1分間チャレンジを利用して、1.2年の内容の復習の時間を作りたいと考えています。図形や空間認識については、実物や図、ICTを活用した授業を行うことで、視覚的に空間を捉えられるような指導をまいります。関数や資料の読み取りなど、生徒の得意な分野はさらに伸ばしていけるよう、ジャンプ問題を活用し、応用的な活動にも取り組んでまいります。

数学は「わかる楽しさ」を積み重ねることで、自信につながる教科です。日々の授業を丁寧に言い、家庭でも問題演習に取り組めるよう、ロイロノートを活用し反復学習ができるよう支援していきます。苦手な内容に対して、「なぜわからないのか」を一緒に考え、前向きに取り組めるよう、班活動では仲間と協力して問題解決する時間を確保してまいります。今後も、子どもたちの一人ひとりの「わかる・できる・伸びる」喜びを大切にしながら、指導に取り組んでまいります。

松陽学区敬老会



9月15日に松陽学区の敬老会が行われ、夏のコンクールで金賞に輝いた吹奏楽部が演奏を披露しました。津軽海峡・冬景色など3曲を演奏しました。会場が大いに盛り上がりました。詳細は学校HPに掲載していますのでご覧ください。